

報告事項ア

海洋練習船「若鳥丸」代船建造にかかる民間活力導入検討結果について

海洋練習船「若鳥丸」代船建造にかかる民間活力導入検討結果について、別紙のとおり報告します。

令和4年11月16日

鳥取県教育委員会教育長 足羽英樹

海洋練習船「若鳥丸」代船建造にかかる民間活力導入検討結果について

令和4年11月16日
教育環境課

境港総合技術高校の海洋練習船「若鳥丸」の代船建造にあたり、民間活力の導入可否について検討が進められてきたが、11月1日に開催された令和4年度第1回県有施設・資産有効活用戦略会議において、従来型手法（県直営）で建造を行う方針が示されたので報告する。

1 これまでの経緯

令和4年2月1日に開催された令和3年度第3回県有施設・資産有効活用戦略会議において、「若鳥丸」のPFI一次審査について検討され、設計を分離することとし、整備及び維持管理について、導入可能性調査を実施することが示された。

令和4年度に総務部行財政改革推進課が民間業者に委託し、県所有船舶更新に関する民間活力導入可能性調査を行った。

2 検討結果

<定量評価>

	県の財政負担額	VFM
県直営整備・維持管理	約45.0億円	
DBO（建造・点検修繕・運航一括発注）	約49.1億円	△9.1%
DBM（建造・点検修繕一括発注）	約45.3億円	△0.6%
O（運航一括発注）	約49.0億円	△9.0%

※VFM：設計、建造及び修繕点検業務について従来方式と比較した削減割合

※運航・点検修繕期間は15年を想定

- ・通常の建設工事と異なり、海洋練習船という特殊性から①基本設計と②実施設計・建造を分割する必要があり、PFI手法による建造部分の削減効果が出ない
船舶の設計にあたっては実績のある設計事業者が極少数で競争が働きにくく、一般的な建築物に比べ船主（県）の意向を詳細に反映させる必要があるため、性能発注には向かない。
海洋練習船は教育施設として、様々な実習を行うため、装備品等を県が詳細に決定する必要があり、より仕様発注的になってしまう。
- ・船員の人件費は公務員に比べ民間の方が高く、外部委託を行う事はコスト上昇につながる

<定性評価>

- ・建造・維持管理（点検）の一体的実施で、建造者による効率的な維持管理が期待できるが、突発的な修繕については、当初契約時点で見込む事が困難で、契約額が高騰する要因。
- ・船舶の修繕はドックに入る際に行うため、当初契約に含まれない修繕は一者随契となり、入札による価格減が見込めなくなることから、建造・維持管理（点検）の一体的実施には更なる検討が必要。



<第二次検討の評価結果>

検討を行った各手法においてはVFMがマイナスとなることから、従来型手法（県直営）で建造を行うこととする。

3 今後のスケジュール

○令和4年8月～令和5年5月 基本設計委託

現在は、PFI手法による場合のスケジュールを考慮し、令和5年5月までの契約期間としているが、今回の第二次検討の評価結果を受け、昨今の資材高騰を踏まえてより実勢に近い価格を反映するため、令和6年2月まで業務期間を延長する。

○令和5年5月 国（文部科学省）補助金要望（令和6年度分）

○令和5年12月 令和6年度当初予算要求（政策戦略事業）令和6～7年度の債務負担行為

○令和6年2～3月 発注仕様決定、建造工事入札準備

○令和6年4月 国補助金内定、入札

○令和6年5月 国補助金交付申請、仮契約、契約締結について県議会に付議

○令和6年6月 県議会可決後、工事請負契約締結

○令和6年7月～令和8年2月 代船建造工事

○令和8年3月 代船竣工

○令和8年4月 代船就航、国補助金実績報告

【参考】代船の概要

区分	代 船 (令和7年度末竣工予定)	現 船 (平成15年3月竣工)
総トン数	約400トン	516トン
費用	約19.3億円（見込） 1トン当たり482.5万円	15億654万円 1トン当たり303.3万円
主要寸法	全長：約40m 幅：約9m	全長：50.5m 幅：9.5m
最大搭載人員	49名	68名
航行区域	国内航海	国際航海